

## NETWORK VOL.143

## TERRA



「だいでんいっしょ」プロジェクトin小城（牛津赤レンガ館にて）

## ■「思いはひとつ だいでんいっしょ」

故賀武夫先生は口癖のように「人間はだいでんいっしょくさ」（佐賀弁で「人間はだれでもいっしょだろう」と言われていました。この理念は東日本大震災の被災者に対してだけのものではなく、地球全体での平和の願いです。しかし、今回の震災の映像をテレビやインターネットなどで見て無力感を感じ、とにかく何かをしたいと言う気持ちになったのは、きっと日本全体でももちろん、世界でも「だいでんいっしょ」だったと思います。

佐賀県のように被災地から遠く離れていても、一人ずつでも何もしない失望感を持つのでは無く、沢山の人の思いを集めて元気の力に変えて行く必要があります。今、みんなが力を集めることが求められています。佐賀県内で活躍する沢山のアーティスト達もそれぞれ単発のチャリティーイベント等を行い、義援金を募っております。しかし、それぞれで短い期間でやるのでは、効果は小さく大きな力にもなりません。こういう時だからこそ、アーティスト同士団結して、一丸となって支え合いながら支援につながる活動をするべきだと考えています。

そこで、一年と言う長い期間で佐賀県内全10市と有田町で毎月一回チャリティーパフォーマンスを実行する「だいでんいっしょ」プロジェクトが震災一ヶ月後の4月に立ち上がりました。すでに佐賀市（4月）、小城市（5月）、多久市（6月）で音楽やダンスなどのパフォーマンスを通して、被災者に対する思いを市民の皆様と共感し支援金を集めています。これから、嬉野市（7月）、武雄市（8月）、鹿島市（9月）、神埼市（10月）、伊万里市（11月）、有田町（12月）、唐津市（平成24年1月）、鳥栖市（2月）、そして、震災一年後の3月には佐賀市文化会館中ホールにて、佐賀県内で活躍する子ども合唱団やミュージカル団体が集結し、全国区で活動されている佐賀市在住のミュージシャン弓削田健介さんとともに子ども大合唱を行い、子ども達の力で被災地だけでなく日本全体を元気にするメッセージを発信します。

「だいでんいっしょ」という言葉には、「被災者の方々が一人ではないということ」と、「みんな共感できる思いを持っている」という意味が含まれています。このような人間の基本的な「思いやり」と言う気持ちを形にすることが本プロジェクトの目的です。個人が持っているネットワークから始まり、次のネットワークにつながり、草の根レベルから全国や世界レベルで「だいでんいっしょ」と言う気持ちをつなげていきます。被災者に何かを届けることだけではなく、自分達が集まってこれから出来ることを考える絶好の機会になります。

また、義援金の配布も滞っている状況の中、義援金ではなく、すぐに復興支援に使える支援基金を集めて、この悲劇から立ち直り育て行く子ども達のために使われるように、認定NPO法人「地球市民の会」を通じて現地に送り届けます。（※本プロジェクトは佐賀から元気を送ろうキャンペーンに賛同しています。）

それぞれの場所で撮影された映像はUstreamで生中継・録画され、インターネット上で世界の誰もが見るができるようにします。被災地から遠く離れている佐賀から、被災者への思いを集めて沢山の人が「だいでんいっしょ」という思いのもと、一つになって元気を送っているという姿を発信します。

「だいでんいっしょ」プロジェクト：<http://daidenissho.sagafan.jp/>

インターネット中継：<http://www.ustream.tv/user/sagagenki>

事務局問合せ：[japan.together@gmail.com](mailto:japan.together@gmail.com)

（文：「だいでんいっしょ」プロジェクト  
実行委員長 青柳達也）

## CONTENTS ■ 2011 夏

古賀武夫先生の言葉を辿る  
敬天愛人 ―一隅より、世を照らさん― Vol.5  
『地球市民であるということ1』

大野 博之 2

## ■地球市民の会

和顔愛語 佐藤 昭二 3

第10回通常総会 4

総会記念イベント 5

佐賀から元気を送ろうキャンペーン 6~7

ミャンマー事業紹介 8

タイ・スリランカ便り 9

村プロ報告 10

協力者一覧&1万人プロジェクト経過報告 11

## ■夢の学校をつくる会

夢タマの思い出 12~13

## ■和道流古賀道場

道場通信 14

## ■古賀英語道場

英語的思考のススメ Vol.5 15

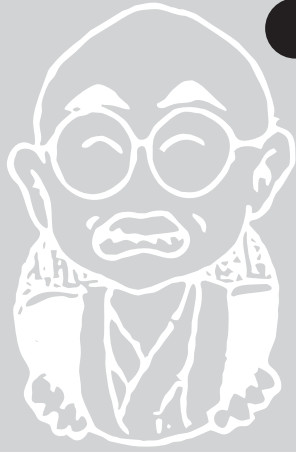
## ■共同執筆

7~9月のお知らせ 16



思いはひとつ

だいでんいっしょ



古賀武夫先生の言葉を辿る

# 敬天愛人

——一隅より、世を照らさん——

Vol.5

『地球市民であるということ1』

大野 博之

今号は「古賀武夫ブックレット 第三号『敬天愛人——一隅より、世を照らさん——』」から、古賀先生の一九九三年（平成五年）の言葉を辿っています。この年、地球市民の会の会長に就任、また地球子どもサミット、アジアユースサミット、テラトピア計画などの事業の活性化があり、地球市民の会のひとつのピークを迎えた年でもありました。当然著述した原稿の量も多く、三回に分けてご紹介したいと思います。

一月八日にソウルで第三回日韓青年経済人会議が開催されました。この際、「日韓青年経済人会議九十三宣言」が採択されました。その骨子は、「未来志向」「アジア人の視点」「経世済民」として、「人類社会の安寧」を求める非常に高邁な理想に支えられたものでした。特に「アジア人の視点」は日韓という経済先進国二国がリーダーシップを取り、アジアの貧困打破に向けてアジアをつなげ、アジアの実情とともに学び、企業と民間草の根団体が連携するという考え方で、約二十年前に現在でも充分に通用する理念を打ち立てたことは、古賀先生の考えは時代のさきがけだったという思いと、時代はそうそう簡単に変わりはないという思いの二つの思いを感じます。また、「農業を主体とした途上国の農村の伝統を壊さず、また農村の自立を前提とし、日韓の企業がNGOや地域住民と連携し、農村に適した雇用場を創設する」事業の提唱は非常に面白い視点であるといえるのではないのでしょうか。現在のソーシャルビジネスやBOPビジネス（貧困層の生活改善をターゲットにしたビジネス手法）と根元を同じにした考え方だといえるからです。

同年三月号のネットワークテラでは、「いのちをいただいて食べること」という題で「もったいない」について記述されています。二〇〇四年環境分野で初めてノーベル平和賞を受賞したワンガリ・

マータイ氏の『MOTTAI NAI』という言葉が世界中に有名になっています。その言葉が一般的な世界語となっている理由は、英語に普通に訳すると「wasteful」になるのですが、wastefulには環境問題を考えるのに重要な概念である、消費削減（リデュース）、再利用（リユース）、再生利用（リサイクル）、が含まれています。が、「もったいない」にはそれ以外の最も重要なポイント、つまり日本人の精神性としての自然や物に対する敬意の意思（リスペクト）が込められていて、「wasteful」ではそれまでも説明しきれないので、『MOTTAI NAI』という言葉世界に広げているそうです。

一九九三年に古賀先生は「もったいない」は「畏れ多い」であると話しています。特に食べ物に対するとき、私たちが毎日食べているものは全部が生命であるのですが、食べ物にする際にそのすべてのいのちを一旦人間は奪ってしまうのです。それを、食わずに捨てるということとは、そのいのちを無駄に殺したこととなり、そのような生殺与奪権を当たり前に使ってしまう人間に驕りが有り、その行為は「畏れ多い」行為であるので、もったいないことをすることはすなわち「畏れ多い」のだということなのです。

このことを私たちに教えてくれるのは、そのような驕りを持たない純粋な子どもであると話しています。車に轢かれ死んでいる犬や猫を見た子どもが「人間を車で轢くと警察に捕まるのに、どうして動物だといいの。動物は何も悪い事をしていないのに」と質問してきたのだということなのです。これはまだ、事故だということとで仕方がないと割り切れるところがあるかもしれませんが、しかし、食べ物を残すことはこのことと同じように仕方がないで割り切れるものではないと古賀先生は言います。

「人間の世界では人殺しは罪です。人間

が生きるため、食べるために殺す牛や豚、鶏、魚は、人間が生きるために食べるのならば、またより良く生きていくならば、その死も無駄ではないといえるかもしれないませんが、食べられもせず、捨てられるだけと云うのなら、彼らは何のために死んでいったのでしょうか。犬死にならぬ、牛死に、豚死に、鶏死に、魚死に、です。天はこれを許し賜うでありましょうか。」

四月四日に「第二回地球子どもシンポジウム」を実施しています。これは、日本、韓国、タイの中高生が集まり、様々なテーマで語り合う事業でした。特に、当時タイ最大の孤児院といわれたワットサーキヤオ孤児院の子ども達が多数訪れたことが、最大の特徴でした。経済的に貧しく、愛情面でも十分な状態ではない中学生達が日本一般の人々に与えたインパクトは計り知れなく、その報告書に熱い想いがたくさん込められていました。様々なやり取りの中、古賀先生はソムサックという母親から家を出され孤児院にやってきた少年の言葉に対し、最終的なシンポジウムの助言者としての日韓タイの中学生に対し、メッセージとして以下のようなことを話しています。

「もうひとつ、皆さんにお願いしたいことがあります。これからは皆さんはいろんな仕事をしていくことになると思いますが、どんな仕事をするにしても、その仕事を通じて、人を幸せにするということとを忘れないで欲しいのです。人を幸せにしようとする中で、自分も感動し、心が震え、幸せになるのだと思います。世の中で最も偉い仕事は、人を幸せにすることです」

これは、古賀武夫先生が終生、この後も青少年に伝え続けていく言葉でもあります。

（以下続く）

# 和顔愛語



佐 藤 昭 二

## 見えるものの奥にある見えないものを見る時

過日（6月18日）公益財団法人修養団の伊勢道場前館長であらせられた中山靖雄先生を伊勢にお訪ねした。私は中山先生とは初めてお会いしたのだが、先生から「懐かしい、逢いたかった」と何度も言われ、そのお言葉とともに先生ははらはらと涙をこぼされた。前会長の古賀さんを介してお互いのことを知っており、よくよく中山先生のことを聞き及んでいたので今回の対面は私にも初めてのような気はせず、ましてや中山先生からそのようなことを言われ感激に打ち震えた。

会話も弾み対談も一山越えたあたりで、ふと、中山先生は「佐藤さん、貴方は本当に健康な方ですネ」とおっしゃられた。実は中山先生は全く目が見えない方である。それにも拘らず、お話をしている間にまるで全てを見通して居られるように私のことを感じ、そのようにおっしゃられるので非常に驚いた。健常者のはずである私の様な人間よりずっと物が見えていられるのだろう、と思った。きっと、中山先生は人生のはるか先まで見通して居られる方でいらっしゃるのだろうと感じさせられた。

中山先生とのわずかな会談の中での、中山先生から教えられたことは、ややもすると私達は、目が見えるが故に、見える目先の事柄に囚われてその奥にある本質を見失ってしまう事が多々あるのではなからうかということだった。

今度の東日本大震災で亡くなられた方、行方不明者合わせて約2万7千人と聞く。まさしく未曾有の大惨事だ。報道でその惨劇を見聞きするたびに誠に悲しい限りで有り、これらの方々のご冥福を心からお祈りせずにはいられない。しかし一方、これらの方々の大きき取り上げた方々のほかに、わが国では、殆んど人目に付く事無く毎年3万数千人の

方が自殺で亡くなっている。さらに無縁孤独死の数は自殺された方の数を上回るともいわれている。この毎年なくなられているおびただしい数の人々のことを、私達は意に介する事無く、そして日常は流れているように思う。

私はその「意に介する事無く流れる日常」に恐怖を感じる。私たちが実際に見える世界だけに価値を置き、本来見えていた見えない世界、本来感じられていた見えない世界を私たち人間の感性が蝕まれ、見えなくなってしまうことに。その能力を喪失していくことに。

東日本大震災が発生した際に、東京都知事の石原慎太郎氏は「天罰」と云う言葉を使われたが、それは東北の人々に対してではなく、日本国全体のまさに「意に介する事無く流れる日常」、すなわち目に見える功利打算、経済至上主義に走った国民全体への文学者としての叫びであったと、私は捉えさせて頂いた。

目に見える全ては、目に見えない陰からの現れである。それを称して昔から私達は「お陰様」と言っているのである。目に見えない「お陰様」を大切にしてきた私たちだからこそ、今もう一度、「目に見えない動きを日常で感じて生活をしていく」ことの重要性に気付き直し、そして見つめ直す必要に迫られている。

我々人類が目に見えるメリットだけに価値を置き、目に見えないものに「意に介さない日常」をこれからも続けていくとするならば、第2、第3の災害も覚悟しなければなるまい。伊勢修養団での学びは私の68年の人生においても、改めて大変大きな節目であったことを気付かされた。



# 第10回通常総会 開催されました

平成23年5月28日（土）、佐賀市市民会館で特定非営利活動法人地球市民の会第10回通常総会が開催されました。現在の議決権のある会員（会の土台を支えて頂いている会員）は303名ですが、当日の出席者が34名、委任状提出者112名で、定款に従って総会が成立しました。

総会の詳しい資料は、同封の平成22年度活動報告書をご覧ください。その中から要点をご紹介します。

## 平成22年度 地球市民の会の一年(事業概要)

- 認定NPO法人となり、新しい姿で成長していくスタートの年となりました。
- ミャンマー事業は、駐在員・本部担当女性3人体制となり、新しい挑戦ができました。  
地球市民の会の中核事業としての役割を担っています。
- タイ事業は、新しいカタチに展開されつつあります。従来の奨学金事業と並行して、人が活動に関わることができる場づくりを意識した年となりました。
- 中山間地元気再生事業は、佐賀市内の中山間地と市内を繋ぎ、佐賀を知り好きになる機会をつくることができました。また、従来からの韓国交流事業にも、更なる活気と感動をもたらすことができています。
- ありがとう1万人キャンペーンを実施し、『ありがとう』の気持ちをカードに込めて贈りました。



山下理事長の軽快な進行で要点を押えて進んでいきます。



顧問の方々も、会の状況に真剣に耳を傾けていただいています

## 平成23年度 地球市民の会の活動方針

- 「佐賀から元気を送ろうキャンペーン」での東日本大震災復興支援事業に注力します。
- ミャンマー事業は、これまでの成果を育み続けながら、3年後のハンドオーバーに向けてスタートをきります。タイ事業は、現地の人々と共に、持続可能な事業への展開を目指して参ります。
- 国際協力事業の新しい事業として、スリランカとラオスでのプロジェクトの検討を進めて参ります。
- 中山間地元気再生事業は、地域の‘ひと’や‘資源’を活かしたパイロット事業を開始します。
- 活動の振返り、経営「カイゼン」をきっちり行い、より充実した活動の展開をします。
- 多くの皆さんと、幸せと笑顔と感動を分かち合えるように明るく元気に取り組んでいきます。



地球市民として試される日々が続きますが、と佐藤会長

23年度も皆さんから愛される地球市民の会を目指してがんばります。応援よろしくお願いいたします。



## 今年の総会記念イベントのテーマは「東日本大震災に学ぶ私たちの生き方」

佐賀から元気を送ろうキャンペーンの一貫として、パネルディスカッションを行いました。

パネラーは、仙台で被災され、今は地元佐賀に帰り被災者支援の活動をおこなっている、砂子啓子さん。この大震災後、いち早く被災地に行かれた、参議院議員 福岡資麿さん。ドリームアーティストとして活躍、今も被災地へ足を運びみんなと夢をつむいでいる大志さん。佐賀から元気を送ろうキャンペーンの理事長を務めていただいております、元佐賀大学学長、長谷川先生。行政の現場で熱い思いをもち活躍されている稲富さん。当会の会長 佐藤昭二の6名。

それぞれの立場で今回の震災で感じていること、ご意見を語っていただきました。

震災時の印象や想い、今回の支援の動きにまつわる「授援力」、原発、エネルギー問題、そして私達の生き方に及んだパネルディスカッションの内容を、それぞれ簡単にまとめました。

### 砂子さん

地震があったとき、私は沿岸部から20kmほど離れた仙台市泉区のマンションの8階に4歳の子供もいた。揺れは大きく、こどもと机の下に隠れた。避難所に避難したが、寒く、食べ物もなく、子どもも衰弱していき、先の見えない恐怖感があった。東北から逃げるか、このまま避難所にとどまるか、ひび割れのひどい自宅に戻るか考え、実家のある佐賀に避難することに決めた。私は元気なので、できることをやっていきたいと思って活動している。

### >生き方について

この地震を機に、今までの生活の見直しが必要。自分で考えて行動する、自己責任で自分達がどうするのか、国をどうするかを考えて生活できるようになれば、変わっていくのでは。スウェーデンでは、クリーンエネルギーとそうではないものを自分で選べるシステムが、原発と自然エネルギーを併用しつつ、だんだんシフトしていきながら、24時間営業をやめる、朝日とともに起きて活動するなど、変わっていければ。

### 福岡さん

約1ヶ月後、気仙沼、陸前高田に行ってきた。津波がきた境目から、本当に何もなかった。行政に頼ろうにも、役場も流されている。今、現地で求められているのは、1、プライバシー。いまだ10万人が避難所にいる。ずっと誰かの視線を感じて生活するのはすごいストレス。2、義捐金が手元に行かない。食事が配給されても、手元に1円もないのはストレス。3、究極は仕事がないこと。

### >支援について

避難所の雰囲気もそれぞれ、「うちはいいから、もっと被害の大きいところへ行ってくれ」など、譲り合い、思いやりといった日本のよさが残るところも。地域力、日ごろの結びつきも見えてくる。今日紹介したかったのが、岩手県釜石市「復興ののろしプロジェクト」。一緒に悲しむことよりもあなたの仕事を一生懸命やってほしい。それが岩手を元気にすることにつながる、というメッセージ。

### >今後のあり方、生き方について

この国のことは国民が決める。火にしても包丁にしても危ないが、それに代わるメリットが。今まで原発はいいということで進め、リスクを開示してないため、リスクへの備えが足りなかった。これからはリスクを開示した上で選んでいただく。被災地の方の今後の暮らしについても、もともとの文化、生き方を尊重したい。



### 大志さん

自分は「あなたの夢はなんですか」ということで、一人ひとりが本当の自分を生きること世界が変わると思って6年間活動してきた中で、今回の地震が起こり、現場に行こうと決めた。1週間宮城、岩手にいて、自分も気が滅入ってくる中、最終日に炊き出しに行った。みんなと一緒に活動したら、自分も相手も元気になった。こどもに夢を書いてもらった「みんなで楽しいことをしたい」と。みんなとは世界。それがこどもの想い。純粋なこどもの想いに、「一緒にやろう!」と思えた。

### >生き方について

今、問題はたくさん、一つ一つ解決するのはナンセンス。戦後、支援がなくても夢を描いて、こんなすごい日本になった。人間は強い、この時代に、どう自分が生きるか。危機を受け入れ、自己責任として受け止め、生き方を考えたい。「元気を送ろう」キャンペーン。一緒に立ち上がろうというパワーを! 誰にでもできる無料エネルギーは元気。自分を見つめることからそれは生まれる。

### 長谷川先生

テレビを見ていて、1945年の第二次世界大戦の終戦を思い出した。東京大空襲があった。死んだ方は10万人を超える。私も千葉空襲に遭い、一夜明ければ焼け野原だった、またその光景に会うとは思わなかった。人間は強い、当時は焼け野原の中立ち上がった。あのときは支援団体なんてなく、自分達でご飯を食べた。今、私達は自分で立ち上がるとき、「支援」という感覚ではなく「佐賀は佐賀」という想いが大事。

### 放射能・エネルギー問題>

地震、津波の問題は地元の人で解決できる、しかし放射能の問題はチェルノブイリを越える。放射能の知識は技術屋も政府も、皆目誰もない。みんな理解していかなければ。原発が悪いのではなく、基本はエネルギー問題。誰かに任せるようではいけない。みなさん一人ひとりが決める。民主主義が問われている。

今、「自然エネルギー」という言い方をすると、すべて自然エネルギー。自然のスケールは、人間がせいぜい100年、身の丈1M半に比べ、数千年。放射能はさらにそれを越える寿命45億年。宇宙全体に広がるもの。数億年という人の遺伝子にぶつかる問題。自然が人間にどう関わり合いをしているか考えなければ、また同じような問題にぶつかる。

また、地球市民として考えていただきたいこと、「地球の資源は誰のものか?」表面のものはそれぞれ国のものでも、地下の資源は公共のものになってほしい。CO<sub>2</sub>の問題なども、「自分の国の資源」という考え方をしている限り解決できない。

### 佐藤会長

阪神淡路大震災や、スマトラのときも当会は活躍の場をいただいて頑張ってきた。

また今回、節電や自然エネルギーの話も出てきていて、自然エネルギーも使っていかなければいけないんじゃないかと思っている。私は前から「風呂敷と自転車」の生活に近づけていく必要があるんじゃないかと言っている。

### 私たちの生き方について>

この世の中、ボランティアという言葉より「おかげさま」という言葉がいい。今回の犠牲者は27000人、しかし毎年、自殺でもっと多くの方が命を落とす。またそれに匹敵するのが無縁死。これを考えれば、われわれの日常生活の中に忘れてしまっているもの、これからの生き様を考える必要があるんじゃないか。自殺は「自分は自分で生きている」という意識があるからだ。私たちは、影の部分=先祖のおかげさまで生きている。



今の状態は科学でもってしても対応できるものではない。「あそこは危ないから護岸工事」ではなく、棲み分けるなど、自然に合わせた生活を。地球市民の会はそういうことも学びながら発信していきたい。

### 稲富さん



佐賀県の対応早かった。翌日のお昼には電話窓口を設置、物資を送りたい、寄付を送りたい、ボランティアやりたいという声をひろっていった。5時以降でも、電話はひっきりなし、ほかに受け皿がないことから、広島や北海道からもかかってきた。13日には義捐金、支援物資の窓口も設置。知事のリーダーシップはすごかった。今までなかったことだから、失敗してもいいからやってみよう、ということだった。

た。もともと町をよくしたい、という想いを持った人が多い。行政が「なんかしなきゃ」と思っていた中で、それを突き動かしたのが、みなさんの声だった。

### ボランティアについて>

ある程度同じところで出来たほうが引き継ぎができていい。また、ある程度継続して支援したほうが、ノウハウ、ハウツーが引き継げる。現場の支援物資の問題も。仕分けが大変。現地のボランティアの手間をかけないように心配りを。ボランティアの個人のマッチングがうまくいかないということも聞かれるが、コーディネーターに従うなど、ボランティア側の意識変革も必要。

パネルディスカッションの前後は、大志さん制作のVTRが。スタートは、震災当日にニュース映像。そのあまりに残酷な映像にみな言葉が失い、ショックを思い出しました。うって変わって最後は、希望とパワーあふれる映像を。今話題のJR九州のCMをアレンジし、「俺は生きている!」という元気エネルギーで日本を元気にする!というメッセージ溢れる映像で、みんなの心に元気を届けてくださいました。

# 佐賀から元気を送ろうキャンペーン

『佐賀から元気を送ろう！キャンペーン』は東北・関東の被災者の方々のために何かやりたいと思っているたくさんの人たちがつながり、力を合わせて佐賀から元気と祈りを届ける活動を実施しています。

現在、約150の団体・個人でご賛同いただいている方々と協力して17の活動を行っています。今回は地球市民の会で行っている2つのプロジェクトを紹介します。「いのちのまつりプロジェクト」「ハッピーストック：Women to Women サポートプロジェクト」です。

## 『子どもたちに夢と希望をつなぐ・いのちのまつりプロジェクト』

被災の子どもたちに限らず、すべての子どもが主役となり、子どもたちが社会を明るくするニュースを日本中の人に送るプロジェクトです。

未来を支える被災地の子どもが夢をもういちど持ち直すことで明るく、元気になるということ、そして遠く離れた地域の同世代の子どもが連帯を深めていくこと、遠く離れた佐賀の子どもが我がことのように被災地のことを思えることを目的とするプロジェクトです。

次世代の日本に希望の火を灯していこうとする未来へ向けた歩みです。

夢ハンカチに子どもを中心に夢を書いてもらい、富士山山頂に持っていき、一枚一枚をおすびうけたドリームリングを巨大アートとして表現します。被災地の子どもを中心に世界中から8万枚の夢ハンカチをあつめます。(2012年8月目標)



(左端がプロジェクト責任者の大志さんです)



### ＜いのちのまつり プロジェクトの名前の由来＞

佐賀の陶彩画家である草場一壽氏が原作のサンマーク出版発行の絵本「いのちのまつり～ヌチヌグスージ」は「なぜいのちが大切なのか」を子どもから大人までにわかりやすく説明した絵本です。この絵本のラストシーンは主人公の「コウちゃん」が連綿とつながっているいのちのバトンリレーに気づき、「いのちの尊さ」に感謝するシーンで終わります。

「コウちゃん、がんばれ！」

夕焼け雲のうえから、たくさんのご先祖さまが手を振っている気がしました。

コウちゃんも、空に向かって高く高く、手を振りました。

そして、たくさんのご先祖さまに、しっかり届く声で言いました。

「いのちをありがとう～！」

～サンマーク出版発行「いのちのまつり～ヌチヌグスージ」より

子ども達が夢を語り、心に希望の火を灯し、改めて顔を上げて未来に向かって生きていこうとする「今、私たちは生きている」という最大限の表現を「いのちのまつり」のラストシーンに重ねました。



30センチ四方の白い布(夢ハンカチ)に夢を書いてもらいます。





## ハッピーストック: Women to Women サポートプロジェクト

笑顔になりたい…。笑顔をみんなで分け合いたい…。  
そんな女性たちの笑顔をストックして、より多くの女性に届けたい…  
という願いを込めて…。

この度の東日本大震災で被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。被災して心を痛めておられる方々に対して、多くの方が同じように心を痛めています。そして、そのような人のために何かをせずにはいられない、という想いを持った女性が組織を超えて東北の女性の心の支えになると活動を始めました。

震災支援のなかで、女性の生活目線のサポートは二次的になりがちでした。男性や仕事を持つ女性は、社会復帰の過程において多くの仲間と自分の存在意義を見つけていくことができます。一方、家庭を守る女性は、経済的にも子育ての中でも多くの不安を抱えています。しかし、そのような女性が、実は地域社会の中で多くの情報を持っており、繋がることにより小さなコミュニティを支える力を持っています。

4月末に設立したハッピーストックは、仙台で被災して佐賀の実家に避難している砂子啓子さんが立ち上げた「i-くさのねプロジェクト」とネットワークを組み、被災した女性に必要なものを必要なだけ、必要な時に届ける活動を行ってきました。この取り組みは、被災地に資金を送って被災地で買ってもらえれば良いということではなく、佐賀で多くの女性が被災地の女性のことを支え必要な物資を送り届ける、と同時に被災した女性たちの笑顔をつくるということを目的としています。そして、遠い佐賀で支援をしたいが何をすればいいのかわからないという多くの女性の気持ちを支援へとつなげることで、女性たちから多くの共感を得ています。

i-くさのねプロジェクトは、仙台にある生協の理事の有志と多くの主婦が地域を支えています。佐賀から送った物資は、6月下旬になっても未だに宅急便が届かない地域にも主婦と地域のネットワークを生かして物資を届けています。近くには商店がなく、買い物をするために2時間もかけて遠くの商店へ行くような地域があります。被災した家では一階に住むことができず二階で生活をしています。従って、支援物資を一度に送っても置く場所がなく、必要なときに必要な物資を届けるという女性目線での細かな気遣いは、地域に存在する社会的弱者といわれる人々への細かなサポートをも可能にしています。



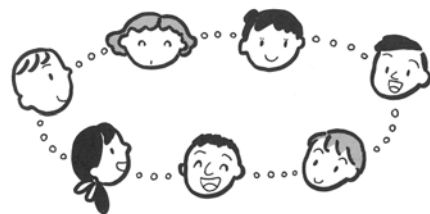
支援物資の梱包作業中です！左端がプロジェクト責任者の西村さん。美人を正面からお見せできずに残念！！



物資が届いた方々からのお礼のメッセージです

設立後は、子ども用のハブラシ・女性用下着、仙台ボランティアセンター・ホームヘルパーセンターへ掃除用具などを支援してきました。5月中旬からは、佐賀市多布施1-4-7にある東日本大震災生活再建支援センターに参加し、情報提供と支援活動を行っています。8月初旬には、東北で被災した母子を佐賀に招聘して心を癒してもらおうという企画を立ており、被災者に避難先として佐賀を身近に感じてもらうことも目的としています。

今後も、被災地の女性支援のために必要な物資の情報をi-くさのねから得、必要な時に必要な物資を現地に送る活動を継続していきます。ただ物資を送るのではなく、東北の女性に寄り添う心を送ります。女性が元気になれば、子どもたちも元気になれる。佐賀の女性の笑顔を集めて被災地の女性の笑顔をつくりましょう。



連絡先 〒840-0822 佐賀市高木町3-10 古賀英語道場2階  
ハッピーストック 担当: 西村 E-mail: naoko.n@po2.bunbun.ne.jp





ミャンマー事業紹介

# ナウンカ村落開発センターの取り組み

自立運営に向けて燃える



お産間近かの豚。センター長ウミョウミンさんが介添え。



ヤーコンの苗を育てています。

循環型農業普及のために二〇〇六年に建設されたナウンカ地域開発センター。普段は四名のTRAスタッフが農業を行っているが、二ヶ月に一度の循環型農業研修の時期になると、二〇名弱の研修生でにぎわう。ナウンカセンターが現在力を入れているのが「ヤーコン」というキク科の植物。ヤーコンのイモは生で食すことができ、葉はお茶として飲むことができる。もともとヤーコンはこの地域の



センタースタッフ クントウンライさん。優しく作物を育てています。

ものではないが、ナウンカの涼しい気候はヤーコンに向いており、大変生育が良い。丈夫で手間もかからず、農業や化学肥料を使用する必要もないため、循環型農業に初めて取り組む人でも気軽に栽培できる。ヤーコンはコレステロールを下げる働きがあり、高血圧や糖尿病の予防に効果があるため、健康志向が高まってきているヤンゴンの人たちに人気が出てきている。特に、気軽に飲用できるヤーコン茶の人気は高く、品切れ状態が続いている。一kg(約一・六kg あたり五千チャットという価格も、農民にとっては大変魅力的である。ヤーコン茶は日持ちがするため、日本での販売も計画中である。オーガニックで健康に良いヤーコン茶、あなたも試してみませんか？

## 決意に燃える 十六名の修了生



背景にあるのがセンターの研修宿舎。鹿児島大学生も研修で泊まったことがあります。

## 第六三回 循環型農業研修

五月五日から十一日まで、ナウンカ地域開発センターにて、循環型農業研修が実施された。二〇〇一年より二カ月に一回ペースで続けられてきたこの研修は、今回で第六三回目となり、参加者数は累計九六一名にものぼる。今回も一六名が参加し、循環型農業の基本を学んだ。

研修では、循環型農業の考え方、土着菌堆肥やボカシ、木酢液の作り方、日本の発酵食品である味噌の作り方などを学ぶ。座学よりも実習が多い研修内容は、村に帰ってからすぐに試すことができる。研修生の評判も高い。昔の研修生がゲスト講師として、自分の畑での循環型農業体験談を披露することもある。

研修講師を務めるウー・ミョー・ミン氏によると、今回の研修生は意欲的で質問も多く、大変盛り上がった研修になったとのこと。「有機農業フリースクールを作りたい」と今後の決意を語る研修生もあり、全員の拍手と笑顔で研修の幕が下りた。



修了証をもらって嬉しそうです。

# タイ・スリランカ便り



## タイで卒業式、新たな出発

タイ東北部。2月はウドンタニ県クーキャオ校で、3月はカラシン県ボーゲウ校で、卒業式が行われた。お世話になった先生から、胸に花を飾ってもらった子ども達は、共に学び遊んだ友達との別れを惜しみながら、新たな出発へわくわくと期待を膨らませているようだった。

タイ東北部・イサーン地方の伝統的な儀式『スクワン』。出産、新築、旅立ち、結婚式、軍隊入隊、結婚式、卒業式、引越等、旅立つ時に『頑張って』という励ましの意味を込めて、籐でつくられた小さな仏塔を囲みお祈りをする。『遠くに離れていてもいつまでも一緒にだよ』という想いを込めて、互いの手首に白い糸を結びつける。

奨学金をボーゲウ校で3年間受けた30名の学生。5月から、高校入学、村を離れ大学へ進学、トヨタの部品工場就職と新しい生活をスタートしている。ボーゲウ校には、毎年秋に、トヨタの工場から日本人職員がやってくる。工場に雇用する学生達と面接するためである。この田舎にある学校に日本人が足を運ぶ理由は…日本の団体から奨学金を受けている学生達なので、一生懸命やってくれるだろうと信頼しているとのこと。毎年のように、5～6人はトヨタの工場へ就職していく。先生達は、『子ども達は、在学中の支えだけでなく、奨学金を通して生きていく世界も広がっている』と言う。

3年間、楽しく元気に学び、卒業の日を迎えることができましたのも、里親さんの温かい支えのおかげと、心より感謝申し上げます。



## タイと日本をつなぐ

タイでの奨学金事業…タイに事務所が無いけど、どうやって奨学金届けているの？奨学生を選ぶのは誰？ツアーに行く時、困らないの？タイ人とのやり取りに言葉の壁は無いの？…などなのはな。本日は、奨学金事業に共に取り組む仲間たちを紹介し～す♪

### ●頼れるお姉さん、ヌイさん



(1番右)

里親の会で、タイカレーやスイーツづくりの先生としても活躍してくれた。

タイ・バンコク出身のピヤサパン・チャニダーさん。あだ名は、ヌイ。細かい書類を作成する時、現地の人々の思いを聞き取る時に、タイ語⇄日本語の翻訳をお願いしている。上級漢字も平仮名もカタカナも使いこなし、本当に驚き。佐賀大学への留学で来日、卒業後、日本で就職。優しく人懐っこい性格で、みんなに愛され、どこへ行ってもすぐに馴染む。

### ●優しい眼差し、マニワン先生（ボーゲウ校奨学金担当）



(1番右)

昨年の11月。前任のサティアン先生が他の学校へ異動することになり、引き継いだマニワン先生。急に任された役割に戸惑いながらも、学生達の様子や報告、奨学生のプロフィールの作成、様々なやり取り等、先生達の先頭にたって頑張っている。優しい眼差しからは、子ども達を応援する温かい気持ちがふんわりと伝わってくる。

### ●笑顔あふれる、スラボン先生（クーキャオ校奨学金担当）



(1番右)

明るく陽気で楽しい事が好きな英語教師スラボン先生。当会との繋がりもカレコレ16年。スラボン先生の授業では、(タイ語なので何を話しているか分からないが…)学ぶ楽しさを全身で伝えていることが、子ども達の笑顔を見れば分かる。

7月、ノンカーイという街の学校へ異動することになった。『奨学金を受けながら卒業して行った学生も、仕事に就き、家族を持ち立派な大人になっている。とても嬉しい』と長い年月を振り返る。『クーキャオ校は離れるけど、地球市民の会の活動から離れるわけではない。いつでもタイに来る時は、声をかけてね』と。

### ●遠方にも強い味方、ギッフさん



(左)

チャンマイ出身のチャナポンさん。あだ名は、ギッフ。昨年11月の訪問ツアーを行った時、通訳として来てもらった。タイ東北部の方言をうまく使いこなし(?)、日本人とタイ人の心の交流に一躍担ってくれた。『できる事はするので、遠慮なく言ってくね』といつも可愛らしいメッセージをくれる。学校の先生と急ぎで連絡をとりたい時や、タイから地球市民の会への連絡など、中間役にたってくれる。1年間の大分大学への留学経験があり、卒業後は日本人観光客のガイドをしていた。今年は、建築士の彼との結婚、大学院への進学と新しい生活が始まるよう。

## 23年度スリランカ・シシヨダヤ奨学金を届けました

常夏の国、スリランカ。気温も湿度も、高い毎日が続いている。スリランカ全土の高校生達が、8月に控えた大学入試に向けて、追い込みに入っている。当会の奨学金を支給校であるサンガミッタ女子校でも、大学の狭き門をくぐることを目指し勉強に励んでいるようだ。学生達に話を聞くと、大学に入りたいのは自分の将来ためというより、家族のためであり、国のため。たくさんの知識や考え方を身につけて、良い地域や国を作っていきたいと本気で思っている。

5月末、サンガミッタ女子校へ23年度分の奨学金を届けました。2010年度奨学生5名と、2011年の新たな5名、合計10名の生徒に支給されます。皆さまの温かいご支援に感謝申し上げます。



校長先生と奨学金担当  
チャンディマ先生

## ボランティアデー、無理なく楽しくやりがいを

4月から始まったボランティアデー。『自分にできる活動なかなうか?』『みんなで何かするって楽しいもんね』『友達つれてきたよ』と参加の輪が広がっている。楽しく積極的に活動されているお2人にインタビューした。



●里親になって地球市民の会の活動をもっと知りたくて。微力だけど、衣類の整理やバザーなど始めての経験を楽しんでやっています♪まだまだ、参加し始めて間もなく…これからどんな事ができるか分かりませんが、皆さんとの出会いを大切に、市民の会の輪を広げていきたい。

●里親として長年関わってきましたが、タイの子ども達に会いに行くと『もつと何か私にできないか』と思うようになった。みんなの「あなたなら出来るよ、ゆっくり良いから」という言葉に乗って参加している私。1人でも多くの子ども達が、夢を持てるように確実に1日1日向かっていけるよう役に立ちたいと思っています☆活動の中で「少しでも役に立ててください」と物をくださる人、「大変でしょうが、頑張ってください」と言ってもらえる時は、涙が出る程嬉しいです。「あなたの時間をより良い地球に世界になる為に使いませんか？私たちの活動、内容を知ってもらい協力頂けませんか。私たちの会でお会いできる時を楽しみにしています♪」と笑顔で語った。



# 中山間地の元気再生プロジェクト報告

山間部に位置し高齢化の進む富士町上合瀬集落では、地域の若者が集まり将来について話し合いを重ねました。この地区も昔に比べて人間関係が希薄になってきています。そこで、地域を繋げるのは若者が立ちあがらなければ！ということで、地域活性若者グループの「ベジボーイズ」を結成しました。地域に住むの農家やサラリーマンの10名で構成されており、定期的に集まっては話し合いを重ねています。野菜栽培の時には、地域の子もたちと一緒に種まきをし、地域の年配者が指導を行っています。地球市民の会はベジボーイズの運営サポートをしています。地域活性化、がんばっています。

## 田植え・サツマイモ植え

年間を通した米づくり体験を計画しています。5月22日（日）に田植え体験を行いました。

21日（土）の予定でしたが、地域での催しが入り延期になり、一般の参加者の集客も心配しましたが、3家族の参加がありました。

ベジボーイズを含めた地域より20名ほど、一般の参加者15名で田植え、芋の苗植え体験をしました。



地域の子もたちと参加の子もたちの交流がもりあがりました！



棚田ではじめて手植え体験する参加者



楽しい～・・・

お兄ちゃんが教えてあげる

こ、これ...どうすれば!?

今年度は、米や野菜づくり、農商工連携の事業、その他のイベントも考えています。自治会長はじめ多くの地域の方のアドバイスやサポートで活躍を行っています。まだ始まったばかりですが、いろいろ頭をかかえながら地域の人たちと一緒に地域をつくっていきます。



## 今後のベジボーイズの動向にご注目ください！



# 協力者一覧

## 正会員

相川 満雄  
秋葉 幸伸 (みえ)  
浅川 達夫  
芦刈 由美子  
靖史 功 (北海道)  
阿部 剛  
阿部 正典 (東京)  
有澤 次郎  
市原 議  
井上 佳那子  
今泉 トモ子  
岩谷 寛  
植田 俊三  
大串 平八郎  
小笠原 義朗  
尾崎 小野  
小野 康子  
小野 次男  
加藤 秀美  
神山 正裕  
蒲生 利夫  
唐沢 稔  
川崎 善久  
河野 恭一  
菊野 恭一  
北島 壽豊  
北島 直樹  
北村 泰文  
木原 方子  
木村 一壽  
草場 文子・弥生  
久保 正敏  
栗田 明  
黒岩 耕  
甲本 洋子  
古賀 愛基  
古賀 和夫  
古賀 慈猛  
古賀 大之  
古賀 友大  
古賀 洋子  
古賀 敏正  
小柳 哲朗  
近藤 秀二  
坂井 邦夫  
坂井 善徳  
坂井 善徳  
境野 正武  
佐久間 博  
里中 長治  
七田 秀徳  
白倉 和子  
瑞木 一博  
杉光 博  
杉光 一博  
瀬戸 法子  
瀬戸 幸子  
副島 進  
田中 陽子  
田中 陽子  
多良 淳二  
古井 浩行  
堤 加奈子  
土井 敏行  
土井 眞信  
土井 清孝  
長澤 京子  
中島 俊子  
中島 康子  
中曾根 健三  
中村 文  
中村 大介  
中村 俊範

中村 電機製作所  
本正 雅貴  
成尾 和明  
尾澤 峰次  
西山 ハヤシ  
納富 翔平  
富田 尚子  
野口 まち子  
山口 彰  
八谷 康彦  
林口 一博  
原 伸哉  
原 伸哉  
春木 ひろみ  
深川 龍一  
福島 龍一  
福岡 龍一  
古川 壽亮  
古川 昌宏  
保利 耕輔  
前田 英彦  
牧瀬 英彦  
松尾 圭雄  
松尾 雄次郎  
松田 孝  
松永 幹哉  
松永 裕  
丸山 文章  
満岡 聡  
峰 悦男  
宮島 町子  
宮地 大治  
本村 満江  
本村 満江  
矢代 久美子  
八田 康博  
山口 スミ子  
山口 廣  
山口 雄司  
山下 泰  
山本 好秋  
横尾 孝幸  
横尾 眞為子  
吉田 敏子  
吉田 英雄  
吉次 孝  
吉本 正光  
吉本 武修  
安心院 晶子  
今村 雅弘  
井上 常憲  
植田 常憲  
植田 常憲  
上地 章夫  
大串 博志  
音成 日佐男  
音成 日佐男  
藤崎 博喜  
中村 豊久  
中村 正彦  
野山 正彦  
吉井 英隆  
杉本 互  
天ヶ瀬 三津代  
平井 八重子  
清田 明  
清田 正義  
田崎 千幹  
深川 寛治  
宮嶋 美子  
宮嶋 美子  
森永 勝男  
森永 勝男  
諸井 政司  
山口 久臣

の野 生子  
西村 一守  
櫻井 淑康  
薩摩 愛子  
薩摩 和夫

## 団体賛助寄付会員

㈱佐賀共栄銀行  
㈱佐賀銀行秘書室  
佐賀信用金庫  
福岡内科消化器科医院  
佐賀新聞社  
㈱ミス  
有田電機社 ティグレ  
㈱北島  
九州電力㈱佐賀支店  
㈱福岡商店

## 特別賛助寄付会員

小林 敏孝

## 購読会員

岡本 千恵子  
北九州地球市民の会 (38名分)  
熊本 由美子  
古賀 久志  
重久 哲郎  
御厨 初美  
山崎 弥生  
岡本 明久  
仲山 恵

## 学生会員

中山 康平

## 賛助寄付会員

鶴田 雅敏  
川松 広栄  
福井 丈一郎  
栗林 正則  
柳 浩輔

## クーキャオ中学校

愛野 良治  
阿部 礼子  
池田 サチ子  
板垣 道代  
井上 弘子  
内山 治郎  
井上 治郎  
浦郷 めぐみ  
江頭 泰子  
江口 恵美  
江口 典子  
榎田 智子  
榎田 智津子  
榎田 智保子  
円城寺 久好  
大野 圭子  
岡 大雅  
小野 康子  
貝通丸 直子  
木下 博和  
倉富 博美  
古賀 由紀子  
近藤 剛  
佐藤 基子  
白井 憲一  
角田 正弘

千住 泉  
田中 克明  
田中 曉美  
寺井 信博  
寺井 勝雄  
徳永 千恵  
中島 俊子  
中島 文子  
中村 志津香  
那須 玲子  
南里 幸利  
野内 直穂美  
野方 正義  
野呂 美加  
秦 智美  
馬場 佐和子  
馬場 龍之介  
原田 典子  
樋口 啓子  
彌富 和枝  
平川 恵里  
平嶋 トキ子  
平野 京子  
平野 朋子  
藤本 修  
藤本 照代  
本弓 康澄  
前田 綾子  
真崎 綾子  
真崎 健次郎  
真崎 ハマ代  
溝上 直喜  
宮地 信文  
武藤 鼓  
武藤 勝馬  
森永 義巳  
安川 義巳  
柳原 則子  
山田 雄司  
山田 利明  
山田 じゅんこ  
吉田 良治  
矢新 邦彦  
林口 明子  
東島 眞美  
八田 正義  
松尾 悦子  
松尾 大輔

## 書き損じハガキ・古切手

磯部 芳子  
満岡 信子  
井上 祥子  
東京海上日動火災保険  
佐賀大学附属中学校  
金立小学校  
北高通信制  
的野 生子  
齊藤 藤次  
鍋島小学校  
栗林 さとみ  
鹿島実業高校JRC  
有田町立有田中学校  
中島 康子  
唐沢 利夫  
佐賀駅前郵便局  
亀井 一恵  
西村 一守  
円城寺 久好

鳥栖代公民館  
白井 空  
石塚 雅子  
井上 祥子  
唐津市社会福祉協議会  
神野郵便局  
㈱損害保険ジャパン  
池田 サチ子  
篠崎 由紀江  
くぼ薬局  
吉田 純子  
御厨 初美  
石塚 雅子  
㈱野野素商會

## クーキャオ高校

青柳 光美  
内山 治郎  
江頭 泰子  
円城寺 久好  
大塚 寿美雄  
大野 博之  
加藤 由紀子  
北村 尚道  
古賀 大之  
小松 重輝  
佐々木 佳寿子  
里中 長治  
千住 友二  
長澤 京子  
西山 峰次  
納江 幸利  
野内 直穂美  
被川 清美  
松枝 和代  
松林 久美子  
的野 直喜  
溝上 美由紀  
森 美由紀  
吉井 英隆  
大串 千和子  
矢新 教子  
林口 多江子  
東島 忠洋  
八田 康博

## シショダヤ

前田 勝美  
野内 直穂美  
横尾 知美  
吉田 純子

## タンボジサポーター

西山 峰次  
北村 直樹  
矢島 伸浩  
(株)損保ジャパン佐賀コールセンター  
森永 さとみ  
竹尾 愛子  
河村 嘉  
坂元 真梨  
辻 利恵  
辻 法夫  
(株)損保ジャパン札幌コールセンター  
熊谷 吉朗  
岡村 由美子

## ぼーん・たわん

(株)損保ジャパン佐賀コールセンター  
森永 さとみ  
竹尾 愛子  
河村 嘉  
坂元 真梨  
辻 利恵  
辻 法夫  
(株)損保ジャパン札幌コールセンター  
熊谷 吉朗  
岡村 由美子

花山 悦子  
真子 ハマ代

## 支援金寄付

牧瀬木工所  
行武 久雄  
井手 洋明  
平川 易子  
日本語指導ボランティアグループ  
こんにちワークSAGA  
柴田 知行  
明治タクシー株式会社  
古賀 正也  
川副 富男  
山中 陽子  
尾崎 義朗  
吉田 純子  
(有)栗林米穀店  
アトム動物病院永富文  
矢新 教子  
佐賀県唐茶屋指定管理者NPO法人  
CSO推進機構  
福田寺 東統禅  
成尾 雅貴  
白山自治会  
たすけあきさが募金  
横山眞 為子  
石橋 正実  
NPO法人天山ものづくり塾  
五十嵐 里恵  
山下 春美  
古賀カラオケ  
だいでんいっしょプログラム  
4/16佐賀市開催募金  
だいでんいっしょプログラム  
5/15小城市開催募金  
だいでんいっしょプログラム  
6/12多市開催募金

## ボーゲウ校

愛野 良治  
池田 サチ子  
石川 祥子  
稲葉 田鶴子  
江口 はる美  
亀井 一恵  
亀井 一恵  
佐藤 さち子  
田中 亜矢  
寺戸 純子  
寺戸 光俊  
戸田 玲子  
西村 賢二  
西山 峰次  
納江 幸利  
平岩 佳名子  
福井 丈一郎  
寶泉 正美  
前田 勝美  
松瀬 直美  
宮島 久美子  
宮島 町子  
山口 勝矢  
吉井 史郎  
吉田 じゅんこ  
吉田 純子

※順不同で掲載させていただいております。

※大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。いつも本当にありがとうございます!!

## 地球市民 感動共感

## 1万人プロジェクト経過報告

2011年3月23日～2011年6月23日の集計結果

カードを受け取ってくださった人数：のべ7019人  
オリジナルグッズに交換された人数：のべ33人

『地球市民 感動共感 1万人プロジェクト』は、間もなく1年が経とうとしています。当会の活動に参加してくださった方々に、感謝の気持ちを込めてありがとうカードを贈らせてもらったこのプロジェクト。1万枚贈呈を目指して取組んできました。プロジェクト期間終了まで、あと1週間。1万枚、達成なるか・・・!? 最終結果は、次号でお知らせ致します♪

## ☆自己紹介☆ 高祖 布佑子

家は農家、末っ子長男姉3人の3女です! 私にとって四半世紀という節目の時に、このような仕事を与えていただき本当にうれしく思っています。みなさまに教えていただきながら早くお役に立てるようがんばります。

東日本大震災支援事業「佐賀から元気を送ろうキャンペーン」の事務局員です。所属を地球市民の会にしています。6月21日から新しい仲間です。





# 夢の学校タマテ箱2011元気にスタート

## 畑

4月のはじめ、ラディシュ、とうもろこし、トマト、綿の花を植えました。毎日当番で水やり、観察日記を付けています。

- ・ほくは、畑がすきです。たまに6かいも水やりをしています。畑の水やりがすきです。
- ・はだけ、さいしよきれいにそだっていたのにラディシュが虫にたべられていたのですごくかなしかったです。
- ・水やりがたいへん!!できあがったラディシュはとてもおいしかったです。

## 入校式

今年初めて入校式を行ないました。上級生が企画、司会進行をしてくれました。

- ・司会をして、ときどきしました。始まって理事長のお話がありました。ながいなあと思っただけ、けっこうおもしろかった。
- ・いのちのまつりの歌はいいうただなあといいながらうたいました。
- ・いい式だなあと思いました。
- ・さいしよは、どんな人がくるかたのしみて、ともだちになれるかなあってときどきしました。だけどすぐともだちになれるからうれしいです。



今年度は新入生4名を迎え総勢20名でスタートしました。いろいろなことを感じながら日々過ごしています。夢の学校タマテ箱で何でもノートを作りました。ノートには畑で採れた野菜や華道で活けた作品のスケッチ、草花の香りの感想、お礼の手紙の下書き、時にはマンガも。このノートには子ども達の日々の暮らしが詰まっています。このノートの中から子ども達の声を拾ってみました。

5月13日の金요일



はつが太根



## キッズセラピスト

夢タマにはアロマのプログラムがあります。アロマを通して環境のことを考えたり、ハンドマッサージを通じていろいろな方達と交流をしています。今回、夢タマの子どもの中から4名の子ども達がキッズセラピストとして自主的に古湯のイベントに参加しました。

- ・古湯温泉のアロマの時とても緊張してお客さんは来るかな?リラックスしてもらえるかな?ととてもドキドキしていた。本番の時、ちょっとくやしかった。大人の方はわりとお客さんが来て、キッズセラピストの方には来なかったから。テキイ声を出しているうちにだんだんとお客さんが増えて、その時私は、とてもうれしかった。
- ・キッズセラピストとして参加しました。大人のセラピストもいたので「ぜったいまけないぞ」と思ったけどお客さんがこなかったの「がっかり」しました。大きな声で宣伝したらいいお客さんが来ていそがしくなり、よろこんでもらえたので、したがいがあったなあと思いました。
- ・「キッズアロマどうですか?」と声をかけただけ無視されたので「いらっ」としました。
- ・はじめはお客さんが来なかったの、心配でした。けれども、「きてくださ〜い」といったら来てくれました。一人が来たら二人目、二人が来たら三人目と増えていきました。大変だったけど楽しかったです。

## 国際交流

夢の学校の五本の柱の中に「地球市民」があります。世界の国々の人、文化に触れ、国際性を育むプログラムです。(財)国際交流協会の出前講座で今回、メキシコの村川カルミナさんとインドネシアのトール・ヘルマンさんに来ていただきました。お礼はもちろんアロマハンドマッサージ。

- ・わたしたちのためにインドネシアの島々の歌を聞かせてくれてありがとうございました。日本の国の「さくら」の歌とてもきれいでした。
- ・バンはスペイン語だとはじめて知りました。
- ・ほくは楽器がひけないのでギターをひけるのはすごいですね。
- ・メキシコのおどりはむずかしそうですがすごいおどりをを見せてくださってありがとうございました。
- ・インドネシアのひろさが日本の5ばい大きいとはしりませんでした。こんどはことばもおしえてください。

武ちゃん語録

それぞれの「成長曲線」は皆違ってきます。時間がかかっても一向に構いません。遅くとも早くとも、自分を信じ、努力を続けていきましょう。Keep smiling!

夢の学校 教育シリーズ⑦

# 「遺伝子が目覚める瞬間」 村上和雄ドキュメントSWITCH上映と監督トーク

「眠っている遺伝子＝無限大の可能性」 「困難は目覚めるチャンス」

6月26日（日）、様々な角度から人間や教育のあり方の原点を探るプログラムの7回目を実施。遺伝子工学の権威、村上和雄博士の研究の軌跡をたどり、私達の眠っている遺伝子が目覚めるのはどんな時かを紐解く映画を上映しました。監督の鈴木七沖さんと、陶彩画家で絵本「いのちのまつり」作者の草場一壽さんとの対談では制作背景や裏話が語られるとともに、会場とのやり取りも行われ、それぞれが自分の眠っている可能性を感じる2時間半となりました。

では、参加者の声を少しだけ…

～映画について～

「今、生きていることの素晴らしさに改めて気づき、ありのままの自分を受け入れて生きていこうと思いました。」（10代）

「科学や遺伝子とは縁がないと思っていたけど、おもしろい。」（20代）

「環境や思い、笑いが遺伝子をONにするということ、科学者の見地からの話にとっても共感しました。」（30代）

「色々なことを理由に参加することを迷いましたが、今日ここに足を向けたことが私のスイッチのひとつになったと思います。」（30代）

「子育てのよい振り返りとなりました。」（30代）

「社会の価値観が大きく揺らぎ、変わろうとしている時に大切なことを伝えている。」（40代）

「小・中・高・大・幼・保どこでも、親子、先生と見て欲しい。」（50代）

「私自身まだスイッチが入っていないのでは、可能性がいっぱい眠っているのではと思った。」（70代+）

～監督トークについて～

「映画の裏話や東北震災の話を通して、監督の熱い思いがひしひしと伝わってきました。」（20代）「発信することへの愛情を感じました。」（40代）「捉え方が参考になりました。」（60代）



はじめまして！高柳です！

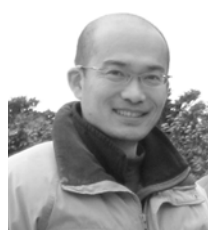
夢の学校をつくる会

高柳 哲也

はじめまして！私は高柳哲也といいます。今年の4月よりお昼から夕方までの時間帯で夢の学校で送迎とIT関係事務を中心にお世話になっています。その他の時間帯は進学塾で理科の講師をやっていたり、いろんな所に出向いてワークショップをしたりしています。

夢学では、好奇心旺盛な子ども達に毎日たくさんのお話を教えてもらって楽しく過ごしています。着任当日には子ども達から心のこもった折り紙のプレゼントをもらって私は大はしゃぎでした。

夢学の子供達には建学の精神を培い、何事にも興味を持つことで意欲と集中力を兼ね備えた子どもに育ててもらえるように精一杯頑張りますので、今後ともよろしくお願いいたします。



感謝！

佐賀市立 金立教育キャンプ場 場長

相良 伸武

夢の学校をつくる会でのたくさんの出会いすべてが私の財産であり、支え、育てて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。ぼうけんタマテ箱を通して自然に魅了され、4月からは金立教育キャンプ場に勤めています。自然の魅力のひとつに「不便」があります。普段の便利な生活であれば、スイッチひとつでご飯が炊けますが、電気がなければ、薪を拾い、割り、火を起こし、火加減を調節して、などたくさんの過程と経験があって初めてできる作業です。これだけ手間ひまかければ自然と作ってくれてありがたいと思いませんか。またこのご飯が本当にうまい！食べ物に対しても感謝の気持ちが生まれます。「不便」もたまには良い経験ですよ！

私はこれからも、「たくましさや好奇心を育み、感性和知性のバランスの取れた人を育む」ために、自然の素晴らしさや大切さを人に伝えていきたいと思っています。そして、将来その思いを「夢の学校」につなげるために…



# 熱い夏がやってきた!! 頑張れ! 選ばれし古賀道場選手達!!

## 九州大会、並びに全国大会出場選手紹介

厳しい予選を勝ち抜き、また厳しい選考会で見事選ばれ、今夏、九州や全国の大舞台に挑む古賀道場っ子選手達を紹介します。



# 道場通信

和道流  
古賀道場

### 第37回全九州空手道選手権大会

7 / 23~24 佐賀県総合体育館

九州各県から選ばれた強豪選手達が終結するハイレベルな大会。  
古賀道場から4名出場は初!!

- ・吉村 直記 選手 成年中量級組手競技、並びに成年組手団体戦
- ・西村 幸明 選手 成年中量級組手競技
- ・前山 篤志 選手 少年個人組手競技、並びに組手団体戦
- ・松尾 昌大 選手 少年個人組手競技、並びに組手団体戦



### 第19回全国少年少女空手道選手権大会出場

8 / 6~7 東京武道館

5月に開催された小学生の県大会で2位までに入賞した選手のみが出場できる全国大会。

- ・古賀 愛望 選手 小学6年生女子形競技
- ・山野 由香子 選手 小学4年生女子組手競技

### 第19回全国中学生空手道選手権大会

8 / 19~21 群馬県 ALSOKアリーナ

6月に開催された中学生の県大会で2位までに入賞した個人、団体のみが出場できる全国大会。

- ・梶山 広大 選手 (中2)
- ・梶山 大地 選手 (中2)

共に城東中学校団体組手競技

### 全国高校生総合体育大会空手道競技

7 / 30~31 青森県

6月に開催された佐賀県高校総体において、個人2位、団体1位のみが出場できる大会。

- 佐賀北高校 組手団体戦  
(前山 篤志・福井 雄一郎・松尾 昌大)
- ・松尾 昌大 選手 個人組手競技



### 第47回和道流空手道連盟全国大会

8 / 20~21 東京武道館

昨年の和道流福岡大会、和道流佐賀県大会など主要大会で好成績をおさめた選手が出場できる大会。  
坂井 柚輝 選手(小3)、古賀 大喜 選手(小4)、  
塚本 大貴 選手(小4)、福岡 羊星 選手(小5)、  
音成 龍二 選手(小5)、光武 裕介 選手(小6)、  
吉原 翔汰 選手(中1)、吉村 哲也 選手(大学1)、  
福岡 知寛 選手(大学2)、吉村 直記 選手(一般)、  
吉村 洋祐 選手(一般)以上11名

今年の夏、古賀道場選手達が九州を、  
そして全国を舞台に大暴れしてきます!!  
どうぞ、応援してあげてください!!



「英語を学ぶ本当の意味」

英語テストの点数だけをとれるような、受験に成功できるようにするだけのような英語を教えることはできません。なぜなら古賀英語道場は「塾」では無いからです。これは先代の故古賀武夫先生もおっしゃられていたことです。受験やテストのためにやっているのであれば、英語は使えるようにはなりません。

文部科学省は平成二十三年度から日本国内全小学校五・六年生を対象に英語活動を完全実施しています(二年間)。これは決して教科では無く活動であり、英語はあまり使えない話せない小学校の先生達が英語を実質教えることで、果たして上手くいくのでしょうか。さらに、ほとんどの子ども達は中学校・高校で続けて英語を勉強します(六年間)。ですが、受験・テスト用の英語では、英語を学ぶ本当の理由・意欲になりません。英語を使う「理由」と「場所」が足りなくて、英語を道具として使うことを実感・体験できません。だから、英語を八年間やっても使えるようにならないように思えます。

今年の一月に僕はデンマークを初めて訪問しました。デンマークでは実践英語を小学校三年生から学ぶので、中学校を卒業するまでには英語が使えるようになっていきます。僕も実際に中学生と自然に英語で会話をすることができました。また、ほとんどの大人の方々も英語を話すことができます。実践英語を教えているからこそ、大人になっても英語を覚えていて使うことができるのです。

韓国には「英語村」があり、英語を気軽に体験できる場所があります。日本より競争社会が厳しいと言われる韓国では英語が話せるのはステータスになっています。ワールドクラスアスリートは記者会見などでも、英語を話しているのをよく目にします。韓国企業はどんな世界市場に躍進していて、その成功は使える英語のおかげです。サムソンの新入社員に要求される「TOEICレベルは九〇〇点だと言われています。それどころか、今やアルバイトの人でも九〇〇点を超える人もいますので、TOEICでは英語の実力は測れない」と英語面接を採用することになったそうです。

英語を使えるような人材を育てるには、従来の英語教育システムを大幅に変えなくてはなりません。学校英語教育だけで高校生卒業の時点で英語を話せる・使えるようになった日本人生徒が果たして今まで何人いるでしょうか。受験という名の元、穴埋めテストをやったりしては、本当の英語力がわかるわけありません。英作文とリスニングだけをさせれば英語力はすぐにわかります。本当にこれから英語を使える人材を日本が必要なのであれば、受験というシステムから英語を切り離して考えていかないと、英語を使える子どもたちは育っていかないでしょう。危機感を感じているのは僕だけではないはずです。

そこで、古賀英語道場では新事業として「グローバルエデュケーションプロジェクト」を今年三月に開催しました。小学校四年生、高校二年生の参加者十九名はAPU立命館アジア太平洋大学(大分県別府市)の留学生を相手に英語

が通じることの喜びやチャレンジを体験しました。英語を学ぶ本当の「理由」を実感しました。参加していたいただいた生徒・保護者の皆さまには大変感謝もうしあげます。

今回、APUからの留学生リーダーはマイク(シンガポール)、クリスティー(中国)、ピカ(インド)、キャット(ベトナム)、ララ(インドネシア)、そして日本人学生の手エさんがプログラムを楽しく運営をしていただきました。プログラム終了後、リーダーは全員口を揃えて古賀英語道場の生徒達を絶賛していたそうです。英語力の高さも評価していましたし、モチベーションが高く、何にでも興味を持って目をキラキラさせて物怖じせずドンドン質問をしてくれたところが、リーダー達はとても嬉しかったようです。リーダー達は様々なプログラムを年間通して運営をした中で、今までで一番楽しかったプログラムとも言ってくれた人もいたそうです。

「いっぱい英語がしゃべれて嬉しかったです。外国人の人達と話してみてもコミュニケーションの取り方がよく分かりました。日本語では伝わらなくて、とまどったけど絵やジェスチャーで伝えればいいことが分かりました。(小学校五年生)」「私はAPUリーダーと一緒にそれぞれのAPUリーダーの国の事を知ったり、英語で会話をしようとしたりして、英語を使うことが凄く楽しかったです。(小学校六年生)」「このプロジェクトに参加して一番感じたことは、英語ができるようになれば、色々な国の人々とたくさん話すことができるということです。前よりも英語が話せるようになりたいと言う

気持ちが高まりました。外国に対する関心が高まり、とてもいい経験になりました。(中学一年生)」「正しい文では無くても相手に伝わったので、伝えようとするのが大切なんじゃないかと思う。間違っても相手に伝えようとする気持ちを持って、これからも英語の勉強を続けていきたいと思った。(中学一年生)」「私は外国人の人とこんなにたくさん英語を話すのは初めてでした。私の英語がうまく使えたかどうかは別でしたが、しかし、普段学校では感じることはできない「実感」を強く感じました。また、私は恥ずかしがってはいけないうことを強く思いました。自分が考えたことを遠慮せずにどんどん口に出す。そうすることで人とは繋がっていくのだと思いました。(高校二年生)」

英語を学ぶ本当の理由を少しでも感じる事ができるいい機会になったと思います。



「グローバルエデュケーションプロジェクト」の様子

## 英語的思考の スス× vol.5

古賀英語道場代表の青柳達也による連載コラムです。  
英語教育とグローバル人材教育というテーマについて、  
色々な視点から世の中を見つめながらコメントしていきます。



# 7月～9月のお知らせ

●は地球市民の会、♥は古賀道場  
★は夢の学校の行事です

## ●タイ・クーキャオ地域の子ども達に会いに行こう！

今回は、青年会議所主催、当会協力の訪問プログラムです。  
里親の皆さん、ぜひこの機会に里子さんに会いにいきましょう★

日 程：2011年8月24日～28日 4泊5日（事前研修会 7月30日 参加必須です）  
訪問先：タイ王国ウドンタニ県クーキャオ地区及びラオス  
参加費：11万円（海外旅行保険、嗜好品代除く）  
定 員：20名

## ●新かちがらす ～日韓大学生の交流～

日 程：8月21日（日）～28日（日）

## ●佐賀から元気を送ろう！キャンペーン 出番だ！プロジェクト

佐賀から被災地へ行き、支援活動を行います。

日 程：9月（予定）

## ♥ディベート大会

7月22日(金)  
1学期授業終了  
20:00～22:00  
(高校生、空手道場2F)



## ♥スピーチフェスティバル

7月23日(土)  
13:00～17:00 (小・中学生、循誘公民館)

## ●三瀬であそぼう！

日 程：9月3日（土）  
時 間：10:00～14:00  
1人2,000円  
ピザ、野菜の蒸し焼きなど

## ★夏タマテ箱

平成23年8月8日～11日  
3泊4日 金立教育キャンプ場



スタッフの  
ひとこと

## ♥夏休み(3週間)

7月24日(日)～8月16日(火)

## ♥2学期授業開始

8月17日(水)

## この夏できる私のエコ

だんだんと亜熱帯気候へと向かっている日本。原発の問題などもあり、今年の夏は日本国民全員が節電しなくてはなりません。すでにご家庭で実践されているエコ、またこれから取り組もうとしているエコを紹介してください。

### 地球市民の会

- 大野 博之** 一番のエコは、おかねのための仕事をしないってこと。でも、そのところがむづかしい…ムムム。そういう意識でポチポチいきますか。
- 岩永 清邦** 自然を対象に時間を過ごす。あついときは山へ行って川ですずんだり。あと事務所に泊まるのも、これまたエコ。車からでるCO2を削減できる！
- 藤瀬 伸恵** うちの古～い冷蔵庫を買い換えることが我が家の一番のエコのような…。節電家電を購入して、GETしたエコポイントをTPAに寄付することで、ミャンマーの環境保全が進む！！という日本もミャンマーも嬉しい一石二鳥なアイデアです。
- 戸田 玲子** 暑ければ外で涼む。余暇は人と話してすごす…。自然と人のなかでシンプルに生きていくことがいいのではと思っています。
- 江口 恵美** 月並みですが… ①なるべく一つの部屋ですごす ②タップ付きコンセントを使って待機電力を減らす ③エアコンのフィルターそうじをまめに ④冷凍室はみっちり、冷蔵庫はゆったりつめる

### 古賀英語道場・空手道場

- 古賀 大之** 動かない！！無駄に動くと汗をかく！！腹が減る！！のどが渇く！！自分も空手の稽古以外では極力動かないことにしよう！！不動如山！！
- 古賀恵美子** エコと言えば家では息子の大喜は怖がりて明るい屋間でも電気をつけまくりです。それを私は「もったいない！！」と言って消す毎日です。大喜の「ひ～たれ」を治すとエコにつながる/かも！？
- 古賀 洋子** 早寝、早起き、朝ごはん！そして昼間は家以外のエアコンが作動している施設にお邪魔しておく/くらいかな…。みんな色々工夫して本当にすごいなあ～と、日本人の勤勉さと、まじめさに脱帽。
- 青柳 達也** 今できることって本当にありきたりですが、その少しが蓄積すれば大きくなります。いずれは、自家発電でできる家を買うと言う目標に向かって頑張ります！

### 夢の学校をつくる会

- 吉村 薫** 窓を開け蚊帳を吊って寝る。七輪でサンマを焼く。タライにスイカを冷やし、縁側でうちわを扇ぎながら夕涼み。昭和初期の暮らしをすれば節電と騒がなくてもと思うのですが、どれか一つでも昔を思い出して実践しようっと！！（そんな年ではありませんよ。）
- 高柳 哲也** CO2排出量削減に貢献すべく、毎日50ccバイクで移動しています。愛車キャノピー号が街中で通過したら気軽に声をかけて下さいませ。バイクは意外と早く着いて涼しくてエコ活動しています。

## 地球市民ネットワーク

■北海道地球市民の会  
〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197  
会長／阿部功 事務局／新保知博  
TEL・FAX：0133-74-1296

■地球市民の会ふくしま  
〒963-8681 福島県郡山市喜久田町1丁目120-1  
(榎石黒)  
会長／事務局担当 石黒秀司  
TEL：024-959-6426  
FAX：024-959-6577

■地球市民の会東京  
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13  
会長／有澤正典 事務局／佐藤敏行  
TEL：03-3662-0331  
FAX：03-3662-0400  
E-Mail：arisawa@nun.co.jp

■地球市民ACTかながわ  
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203  
会長／近田真知子 事務局担当／伊吾田善行  
TEL・FAX：045-622-9661  
E-Mail：port@tpak.org

■地球市民の会ぎふ  
〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1  
竹花園内  
会長／森幹治 事務局担当／平井八重子  
TEL：058-391-5415  
FAX：058-391-8600

■地球市民みえの会  
〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターバース3F  
津市市民活動センター内  
会長／伊藤洋之 事務局担当／秋葉幸信  
TEL：059-226-5700  
FAX：059-224-8911  
E-Mail：miemiemi21@hotmail.com

■地球市民の会京都  
〒605-0873 京都市東山区下島町484  
会長／宮川尚子 事務局担当／西田一貴

■神戸戸有頂天倶楽部  
〒657-0045 神戸市灘区下河原通3丁目4-3  
会長／松元隆司 事務局担当／大西陽治

■愛媛地球市民の会  
〒799-0712 愛媛県四国中央市土居町  
入野859-1  
会長／森高康行 事務局担当／丹生谷宗久

■北九州地球市民の会  
〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14  
中央会館2F  
会長／河野一郎 事務局担当／大山研児  
TEL：093-521-8181  
FAX：093-551-2296

■地球市民の会福岡  
〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4  
(榎増屋内)  
会長／増田誠司 事務局担当／西村和寿  
TEL：092-801-5888  
FAX：092-801-5789

■（特活）コミネット協会  
〒861-8039 熊本市長瀬南2丁目5-31  
会長／池永憲貞 事務局担当／富田、田中  
TEL・FAX：096-387-7139

■古賀英語・空手道場  
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10  
TEL：0952-25-2295  
FAX：0952-26-4922

■夢の学校をつくる会  
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10  
TEL：0952-22-6262  
FAX：0952-26-4922

## ネットワークテラ 夏号 VOL.143

発行／  
認定特定非営利活動法人 地球市民の会  
〒840-0822  
佐賀県佐賀市高木町3-10  
ホームページ：http://tpa.nk-i.net  
E-mail：office@tpa.nk-i.net  
TEL：0952-24-3334  
FAX：0952-26-4922  
発行日／2011年8月1日  
発行人／佐藤昭二  
編集人／地球市民の会 事務局  
印刷／株サガブリンティング